

第3回 多摩市街路樹よくなるプラン改定委員会 検討資料



平成29年11月24日（金）
多摩市都市整備部道路交通課

議事2: 目標像の設定・改善モデル区間の選定方針等について

- ① 課題の整理
- ② 目標像及び方針の設定
- ③ 改善モデル区間の選定方針

議事3: 市民参加・アンケート調査経過報告について

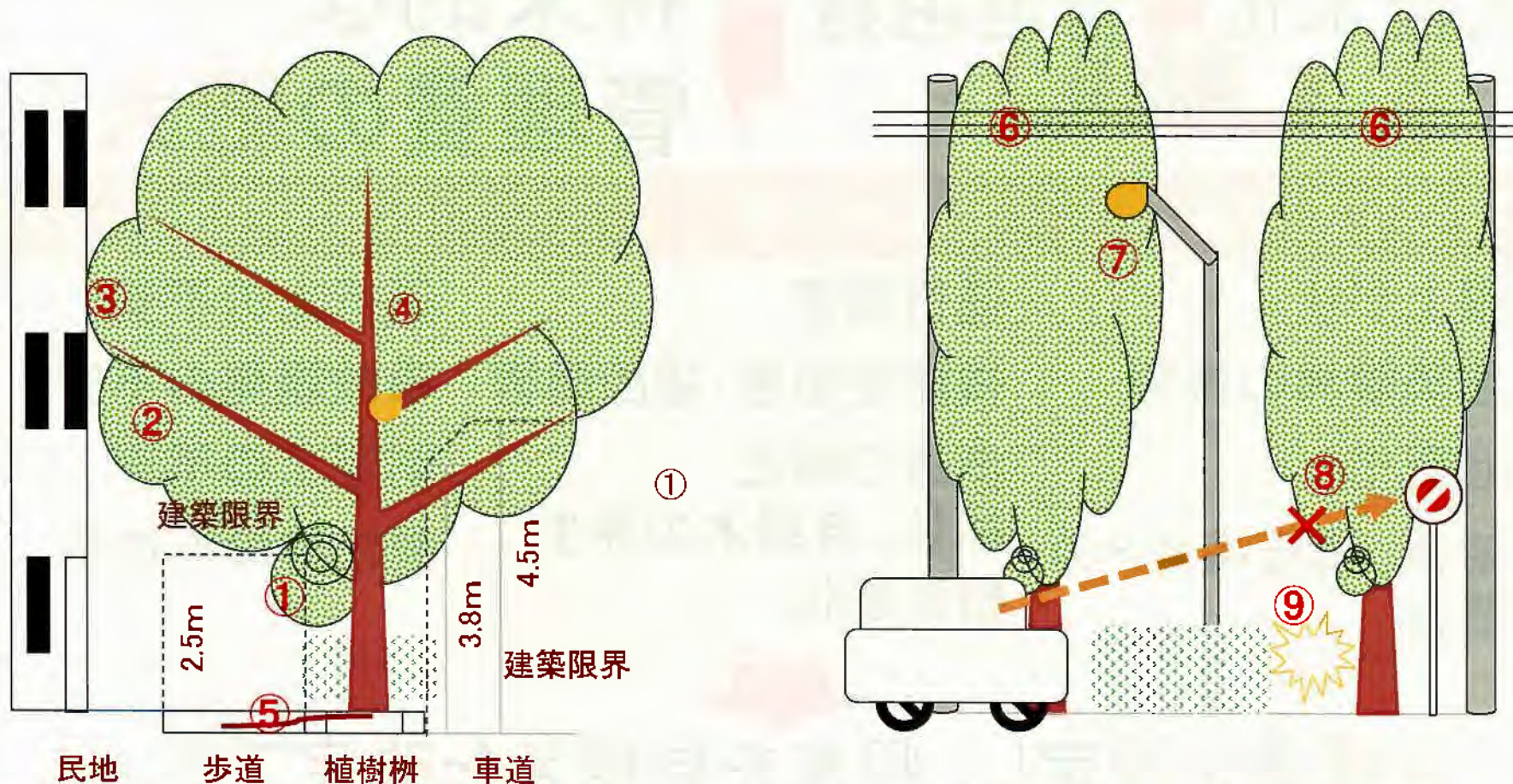
- ④ 街路樹管理の市民参加の可能性
- ⑤ アンケート調査経過報告

議事4: 委員会の進め方・スケジュールについて

- ⑥ 今後の委員会の進め方・スケジュール

1. 課題の整理

(1) 多摩市の街路樹の現状



①枝葉の建築限界越境
②枝葉の民地への越境
③枝葉の建物への接触

④大枝の腐朽による落枝の危険
⑤根の成長による歩道舗装の破損
⑥枝葉接触による強風時の架線破損

⑦枝葉繁茂による街灯照明阻害
⑧枝葉による交通標識等の視認阻害
⑨中低木繁茂による飛び出し等視認阻害

1. 課題の整理

(1) 多摩市の街路樹の現状



誘発する問題	物理的課題	心理的課題
根上がり	通行阻害	通行上の不安
建築限界の侵害	視認性阻害・視距阻害	事故誘発の不安
過密化	歩道の暗化	防犯上の不安
架線、隣接植栽との競合	枯枝、衰弱木の発生 樹形悪化	見た目の不快感

目標像を設定し、将来を見据えた改定プランに
基づく新たな取り組みが必要

1. 課題の整理

(2) 街路樹の維持管理の現状

「多摩市街路樹よくなるプラン(街路編)に基づく管理

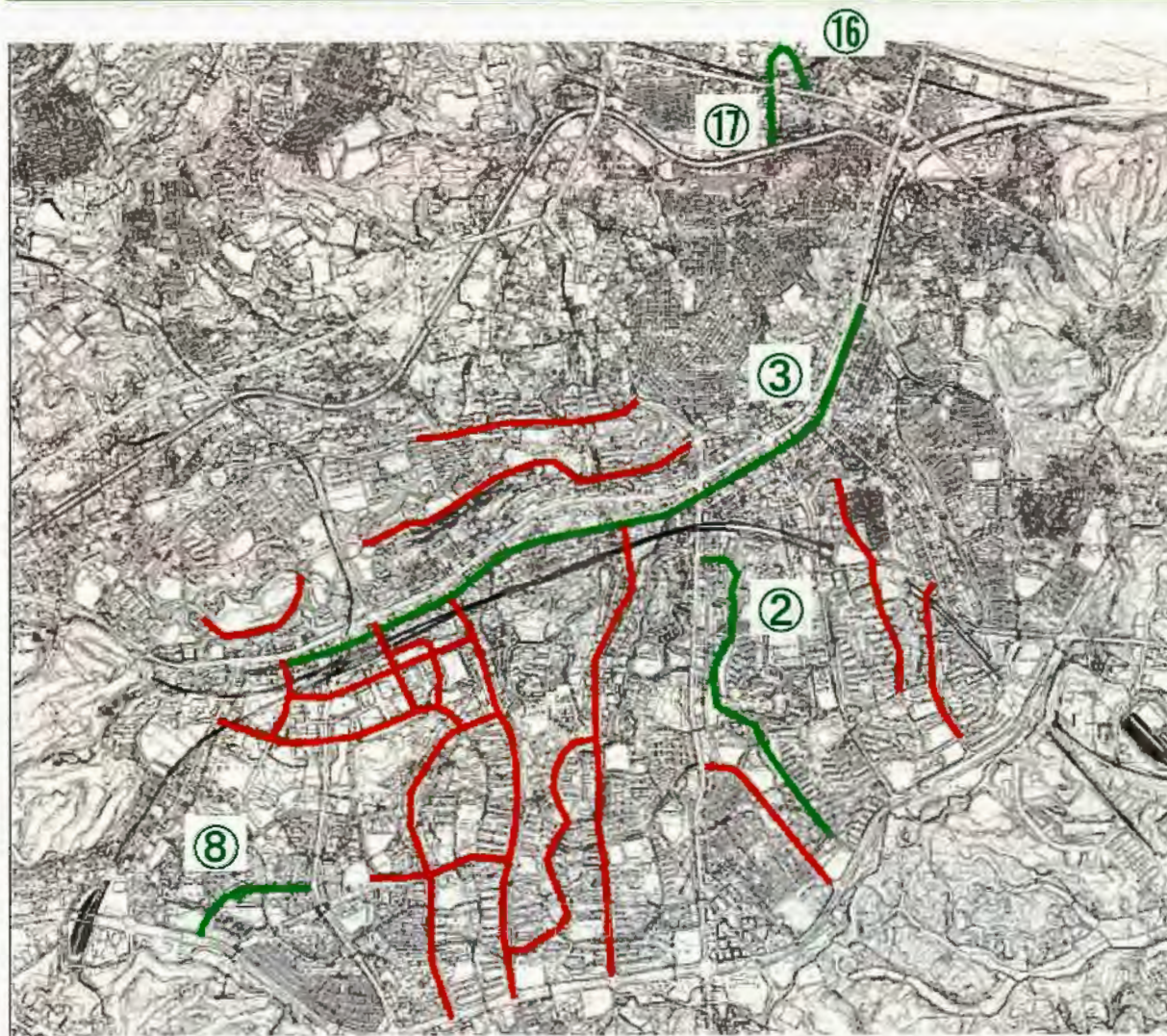
(多摩市道路交通課、平成20年9月)

現状の取り組み

ステップ1	信号機、標識、交差点の見やすさの確保、街路灯支障などの防犯上の支障を、根上がり等により道路を破損させている街路樹の撤去 (+ 建築限界の確保)
ステップ2	公園や学校、団地の緑地と重複している街路樹の間伐
ステップ3	樹木間隔を広げるための間伐 → 生育空間の確保、自然に近い緑豊かな樹形づくり
ステップ4	景観上で大切な街路樹や、枯れた街路樹を若木へ更新
ステップ5	既存の街路樹がふさわしくない箇所について、樹種変更

1. 課題の整理

街路樹よくなるプラン(街路編)の重点管理路線への対応



【重点管理路線】

改善が特に必要な17路線

— 間伐路線

→主に間伐で改善する12路線

※ステップ1まで実施

— 剪定路線

→主に剪定で改善する5路線

③乞田川沿い(ソメイヨシノ)

：街路樹診断

②③ (ソメイヨシノ)

①⑥①⑦ (サクラ)

：枯れ枝及び下枝剪定のみ実施

⑧メタセコイア通り

：一部樹木の下枝剪定のみ実施

1. 課題の整理

(2) 街路樹の維持管理の現状

【街路樹の幹周と経年成長でのコスト増(剪定)】

・街路樹の管理費用は約60cm毎に単価が上昇する。

剪定費用の
さらなる増加

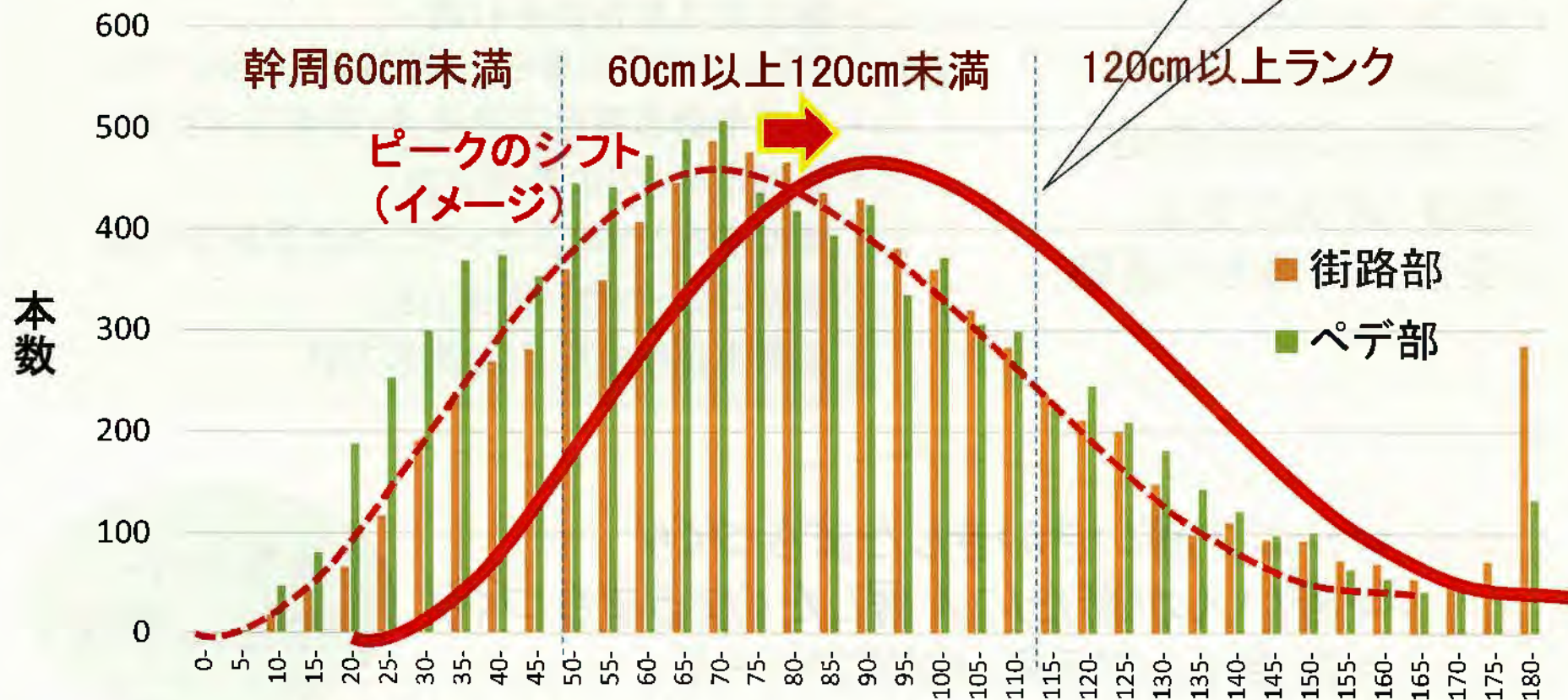


図 全樹種における幹周5cm毎の本数 ※本数:平成27年度多摩市調査時点

1. 課題の整理

(3) 多摩市の現況と今後の姿

市政・行政

【現況】

- 人口:14.7万人
高齢化進行
→生産人口減の見込
- 税収:減少の見込
→生産人口減との連動

【現況を受けた市の方針・関連計画】

- 第五次多摩市総合計画:
「安心して快適に暮らし、移動できるまちづくり」
- 多摩市都市基盤施設維持・更新基本計画
- 多摩市みどりの基本計画
- 多摩市みどりのルネッサンスの取組報告書
- 多摩ニュータウン再生方針
- 多摩市健幸まちづくり基本方針

⇒シニア層いきいきしたまちづくり

⇒若い人が新たに入居したくなるまちづくり

⇒社会インフラのバリアフリー化

スマート
ウェルネス

1. 課題の整理

(4) 多摩市の課題から導き出される方向性

維持管理の現状

【街路部】

高木: 一部の路線を除き、
障害発生時に剪定
+ 軽剪定

低木: 1年に一度の剪定

【ペデ部】

高木: 基本無剪定
応急的な対応のみ

低木: 2,3年に一度の剪定

管理が行き届いているとは言い難い状況

⇒ 街路樹の大径木化・老朽化による 管理負担増加

⇒ 市民の高齢化による 税收減少

いっそう管理が行き届かなくなる可能性

危険な歩行空間の増大

防犯上不安のある、
暗いペデ空間の増加

1. 課題の整理

(4) 多摩市の課題から導き出される方向性

安全確保

- ・通行阻害
- ・視距阻害

安心・快適な通行空間

- ・見通しの確保

景観形成・地域づくり(生育改善)

- ・風景を形づくるみどり
- ・健全なみどり

多様な主体との連携

(市民団体(道路アダプト団体等)、事業者、学校、その他)

持続的な管理

- ・人口動向に連動する財政の変化への対応
- ・大径木化・危険木化の進むみどりの計画的な若返り

身の丈にあった量のみどりを心地よいみどりに

2. 目標像及び方針の設定

(1) テーマ・目標像・実施方針

街路のテーマ(目標像):

「多摩でつくる
美しいみどり(検討中)」
～人の目線で美しいみち～

ペデのテーマ(目標像):

「多摩とつくる
こちよいいみどり(検討中)」
～歩いて楽しい空間～

安全な通行の確保におけた適切な管理をしながら・・・

【大方針】

- ・安心・快適な歩行空間としての整備を図る
- ・持続可能なみどりを育てる
- ・みんなで協力して多摩市の誇れるみどりを育てる

【実施方針】

- 1) 通行に支障となる問題には迅速に対応
- 2) 今後を見据えた持続可能なみどりの形成
- 3) 多様な主体との連携による特色ある快適なみちの形成

2. 目標像及び方針の設定

(2) 街路部 「多摩でつくる美しいみどり」

【実施方針】

1) 通行に支障となる問題には迅速に対応 (安全確保・安心快適)

- ・施設の損傷を及ぼす木→撤去、間引き、剪定等の実施
- ・通行支障、治安の悪化を誘発し得る木→撤去、間引き等の実施

街路部の
ポイント

2) 今後を見据えた持続可能なみどりの形成 (持続的管理・景観形成)

- ・“目の行き届くレベルでの管理” →街路樹のある路線の絞込み、管理対象のスリム化
- ・老朽化が進む路線→計画的な撤去や若木更新等の植栽構成の更新検討
- ・他施設や隣接する緑との競合→撤去や樹種転換等の検討
- ・その他路線・区間→管理目標の設定、方策の整理及び計画的な管理の取組み

3) 多様な主体との連携による特色ある快適なみちの形成 (市民連携)

- ・市民、学校、企業、アダプト団体等との連携

2. 目標像及び方針の設定

(3) ペデ部 「多摩とつくるこちよいみどり」

【実施方針】

1) 通行に支障となる問題には迅速に対応 (安全確保・安心快適)

- ・施設の損傷を及ぼす木→撤去、間引き、剪定等の実施
- ・通行支障、治安の悪化を誘発し得る木→撤去、間引き等の実施

ペデ部の
ポイント

2) 今後を見据えた持続可能なみどりの形成 (持続的管理・景観形成)

- ・生育空間 広い → 安心・快適、歩いて楽しい空間創出
- ・衰弱木・枯れ木、暗い路線→撤去、樹種転換等の更新、中低木の撤去・植え替えなど緑量の調整を検討
- ・隣接する緑との競合→撤去、低木への緑量調整、植え替え等の検討
- ・その他路線・区間→管理目標の設定、方策の整理及び計画的な管理の取組み、特に中低木の構成の見直し

3) 多様な主体との連携による特色ある快適なみちの形成 (市民連携)

- ・市民、学校、企業、ボランティア団体等との連携

2. 目標像及び方針の設定

(4) 短期的な目標像(10年後を目処に)

観点	短期的な目標(10年後)
安全確保	<ul style="list-style-type: none">・ 枯れ枝を有している樹木や枯れ木が放置されておらず、安全に通行できる・ 根上りにより舗装が盛り上がっておらず、安全に通行できる
安心・快適な通行空間	<ul style="list-style-type: none">・ 植栽木が整理され、通行時の見通しが確保され、安心して通行することができる
景観形成・地域づくり(生育改善)	<ul style="list-style-type: none">・ 枯れ木の発生ペースが緩やかになる・ 大径木の樹勢や危険度を考慮した措置が順次実施されはじめている・ 建物および架線・電柱・信号等隣接施設との競合の回避が図られている
持続的管理(市政)	<ul style="list-style-type: none">・ 現在に比べて計画的な剪定が順次行えるようになっている・ いくつかの路線の特定の区間で、道路空間に適合し、管理負荷の少ない樹種への更新や緑量の調整等の試みが完了している・ 樹高抑制に関する試験施工を実施し、いくつかの路線で景観形成に資する維持管理手法に取り組んでいる・ 樹木の状況と維持管理がデータベース化され一括で管理されている。
多様な主体の参加	<ul style="list-style-type: none">・ 既存のアダプト活動を手がかりとした街路樹づくりの活動内容の進展がみられる

2. 目標像及び方針の設定

(5) 長期的なビジョン(30年後くらい)

観点	長期ビジョン(30年後)
安全確保	<ul style="list-style-type: none">・みどりの息吹を感じながら通行できる (街路)・みどりを楽しみながら安心して歩くことができる (ペデ)
安心・快適な 通行空間	(同上)
景観形成・ 地域づくり (生育改善)	<ul style="list-style-type: none">・「心地よいみどりのまち・多摩」としたシティセールスが浸透している・道路空間に適合した樹木がいきいきと育ち、みどりの質が高まっている・路線ごとに心地よいみどりが感じられる (街路)・街区ごとに特色のある風景が演出されている (ペデ)
持続的管理 (市政)	<ul style="list-style-type: none">・更新を取り入れた管理により年度ごとの管理が平準化されている
多様な主体の 参加	<ul style="list-style-type: none">・市民連携による通報システムが構築されている・中低木・地被を用いた市民連携での地域づくりが定着している・道路以外の市内のみどりの取り組みとの連携が図られている

3. 改善モデル区間選定方針

(1) 改善モデル区間選定の考え方

【改善モデル区間の選定について】

【背景】

- ・テーマや目標像の実現に向けた実施方針の検証が必要である。
- ・生きものであるという特性をふまえた検証が必要である。
- ・不健全な状態の樹木の取り扱いについても検討が必要である。

【改善モデル区間の設定】

- ・街路樹の状態に応じた対応が必要
- ・改善モデル区間の設定
- ・対応内容の検討

3. 改善モデル区間選定方針

(1) 改善モデル区間選定の考え方

【改善モデル区間の分類案】



3. 改善モデル区間選定方針

(1) 改善モデル区間選定の考え方

【街路部の改善モデル区間選出の目安(案)】

< 街路樹の状態 >

- ・ 枯損度の高い樹木が多い
- ・ キノコがある
- ・ 植栽間隔より樹冠幅が広い
- ・ 根元径が植樹幅の50%を超える
- ・ 根上がりが見られる
- ・ 隣接するみどりに被圧されている
- ・ 樹高が10m以上（街路）
- ・ 架線接触や建築限界の越境
- ・ 歩道幅員が3.0m未満
- ・ 低木植込が1.0m以上
- ・ 課題の多い樹種である

< 課題の多い樹種 >

落葉樹：エンジュ、ケヤキ、ソメイヨシノ、シダレヤナギ、シンジュ、ニセアカシア
常緑樹：マテバシイ、ネズミモチ類



3. 改善モデル区間選定方針

(1) 改善モデル区間選定の考え方

【街路部の改善モデル区間での対応例】

＜ 街路樹の状態 ＞

- ・ 枯損度の高い樹木が多い
- ・ キノコがある
- ・ 植栽間隔より樹冠幅が広い
- ・ 根元径が植樹幅の50%を超える
- ・ 根上がりがみられる
- ・ 隣接するみどりに被圧されている
- ・ 樹高が10m以上（街路）
- ・ 架線接触や建築限界の越境
- ・ 歩道幅員が3.0m未満
- ・ 低木植込が1.0m以上
- ・ 課題の多い樹種である

＜対応例＞

- ・ 危険な樹木の伐採
- ・ 樹木の生育空間の確保
(間引き (2本に1本)、衰弱木の伐採等)
- ・ 高所作業車で作業できない樹木の更新等
- ・ 隣接するみどりで衰弱した樹木の伐採
- ・ 簡単な枝葉の剪定の協働
- ・ 計画的な樹高の高い木の更新等
- ・ 計画的な樹形の転換 (大枝降し)
- ・ 中低木の一部植込み撤去
- ・ 樹種転換

3. 改善モデル区間選定方針

(1) 改善モデル区間選定の考え方

【ペデ部の改善モデル区間選出の目安(案)】

< 街路樹の状態 >

- ・ 枯損度の高い樹木が多い
- ・ キノコがある
- ・ 植栽間隔より樹冠幅が広い
- ・ 根元径が植樹幅の50%を超える
- ・ 根上がりがみられる
- ・ 林冠が常緑広葉樹
- ・ 中低木や生垣が複数並んでいる
- ・ 隣接する緑に被圧されている
- ・ 架線接触や建築限界の越境
- ・ 歩道幅員が3.0m未満
- ・ 低木植込が1.0m以上
- ・ 課題の多い樹種である

< 課題の多い樹種 >

落葉樹：エンジュ、ケヤキ、ソメイヨシノ、シダレヤナギ、シンジュ、ニセアカシア 20
常緑樹：マテバシイ、ネズミモチ類



3. 改善モデル区間選定方針

(1) 改善モデル区間選定の考え方

【ペデ部の改善モデル区間での対応例】

< 街路樹の状態 >

- ・ 枯損度の高い樹木が多い
- ・ キノコがある
- ・ 植栽間隔より樹冠幅が広い
- ・ 根元径が植樹幅の50%を超える
- ・ 根上がりが見られる
- ・ 林冠が常緑広葉樹
- ・ 中低木や生垣が複数並んでいる
- ・ 隣接する緑に被圧されている
- ・ 架線接触や建築限界の越境
- ・ 歩道幅員が3.0m未満
- ・ 低木植込が1.0m以上
- ・ 課題の多い樹種が多い

< 対応例 >

- ・ 危険な樹木の伐採
- ・ 暗所改善箇所の緑量調整(伐採・更新等)
(常緑の高木の一部伐採、多重・多層の樹木の間引き、街路灯周りの樹木伐採等)
- ・ 隣接するみどりで衰弱した樹木の伐採
- ・ 簡単な枝葉の剪定・除草の協働
- ・ 計画的な樹高の高い木の更新等
- ・ 計画的な間伐
- ・ 中低木の一部植込み撤去
- ・ 樹種転換

3. 改善モデル区間選定方針

(1) 改善モデル区間選定の考え方

【候補抽出方法(案)】

①立地特性別タイプ区分内の路線

- ・タイプ区分ごとの特徴・課題となる項目が特に多く見られる路線から、候補を数箇所選出

②現行プランの重点管理路線

- ・現行プランにおける「重点管理路線」から路線を選出



- ・多摩市の関連計画で位置付けされた地域や通学路など配慮が求められる区間、市民アンケートなどから絞り込み

3. 改善モデル区間選定方針

(1) 改善モデル区間選定の考え方

【タイプ区分ごとの路線選出】

1. 典型的な樹種

導入路線数の多い樹種

2. 更新を含めた検討

暗い環境(ペデ)

枯れやキノコがある、根上がりがある等
林冠が常緑樹、中低木や生垣が並ぶ

3. 景観形成効果

人通りが多い、通学路、沿道での市民
活動あり

3. 改善モデル区間選定方針

街路部: ①ただちに改善が必要な路線

樹種: エンジュ

幹枝: 枯れやキノコなど衰退

樹冠 > 間隔

根元: 歩道狭い、寄植が狭い

印象を強めている



- ・枯れ木や樹勢が衰えている
樹木などの危険木の伐採実施。早急に対応が必要
- ・低木の撤去検討

区分: ②-1団地(高層)

通学路	初版重点 管理路線	a衰退	b被圧	c樹冠 広	d越境	e根元 径	f根上 り	g樹種	h低木 列	i低木 高	j歩道 狭
○		○		○				△	○		△

3. 改善モデル区間選定方針

街路部：②近い将来管理負担増大が見込まれる路線

- 樹種：サクラ
- 幹枝：枯れやキノコなど衰退
- 樹冠 > 間隔
- 根元：根元径/植樹樹 > 0.5
- 根上りにより舗装浮上



今後、大径化が一層進み、維持が困難になる可能性大



区分：②-1団地(高層)

通学路	初版重点管理路線	a衰退	b被圧	c樹冠広	d越境	e根元径	f根上り	g樹種	h低木列	i低木高	j歩道狭
○		○		○		○	○	△	○		△

3. 改善モデル区間選定方針

街路部：③管理次第でさらによくなる路線

樹種：ケヤキ

幹枝：枝葉が重なり離接樹木
同士で被圧、枝葉が住宅側に
越境

根元：植栽帯に根元があふれ
るほど成長し、歩道狭く、これ
以上の成長は支障発生の可能性大



- 1) 植栽本数を計画的に少なくする。
- 2) 住宅地側への越境の解消



区分：①-1住居・オフィス隣接

通学路	初版重点 管理路線	a衰退	b被圧	c樹冠 広	d越境	e根元 径	f根上 り	g樹種	h低木 列	i低木 高	j歩道 狭
○					△	○		△	○○		△

3. 改善モデル区間選定方針

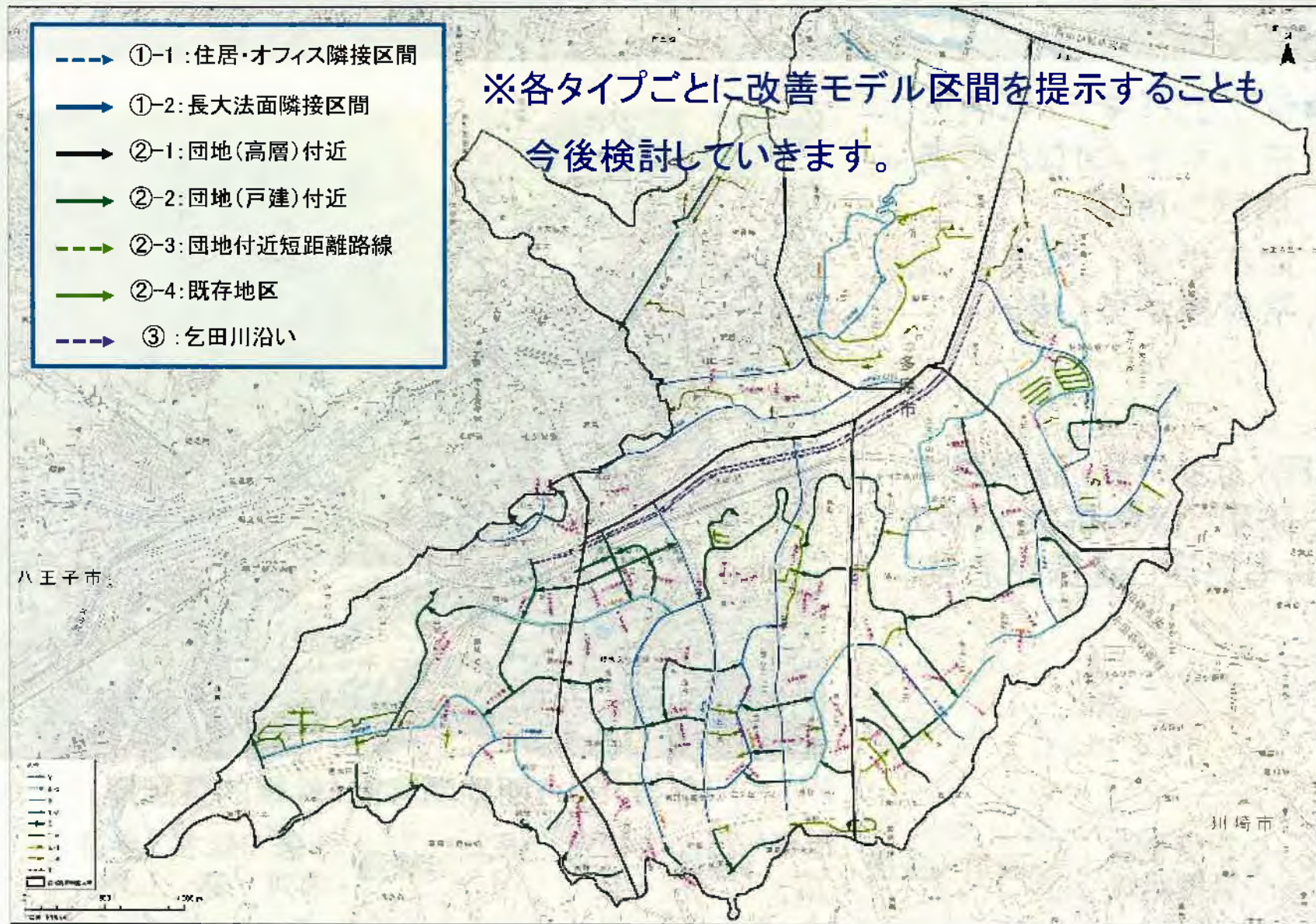


図 街路部の位置図

3. 改善モデル区間選定方針

ペデ部：①ただちに改善が必要な路線

樹種：シラカシ・マテバシイ
 幹枝：枯れやキノコなど衰退
 樹冠＞間隔
 根元：低木が高く、密生
 空間：常緑樹が多く暗い



通年暗くなりがち。通学路であり、防犯、接触事故抑制のためにも見通し確保が急務。



区分：④-1団地間移動(幹線的長距離)

通学路	初版重点 管理路線	a衰退	b被圧	c樹冠 広	d越境	e根元 径	f根上 り	g樹種	h低 木列	i低木 高	j歩道 狭
○		○		○				△	○	△	

3. 改善モデル区間選定方針

ペデ部：②近い将来管理負担増大が見込まれる

樹種：シラカシ
 幹枝：枯れや民地への越境
 樹冠 > 間隔
 根元：根上りにより舗装浮上
 空間：中央部に植栽があり歩道狭い



植栽が多く、管理コスト増大の可能性大。



区分：④-2団地間移動(支線的短距離)

通学路	初版重点 管理路線	a衰退	b被圧	c樹冠 広	d越境	e根元 径	f根上 り	g樹種	h低木 列	i低木 高	j歩道 狭
○	—	○		○			○	○	○○	△	

3. 改善モデル区間選定方針

ペデ部：③管理次第でさらによくなる路線

樹種：シラカシ・ハリエンジュ
 幹枝：一部で樹冠が重複
 根元：歩道狭く、雑草が狭い印象を強めている)
 空間：中央植栽が歩道狭く見せる



植栽本数を計画的に少なくする。



区分：④-2団地間移動(支線的短距離)

通学路	初版重点 管理路線	a衰退	b被圧	c樹冠 広	d越境	e根元 径	f根上 り	g樹種	h低木 列	i低木 高	j歩道 狭
○				○					○○	△	

3. 改善モデル区間選定方針

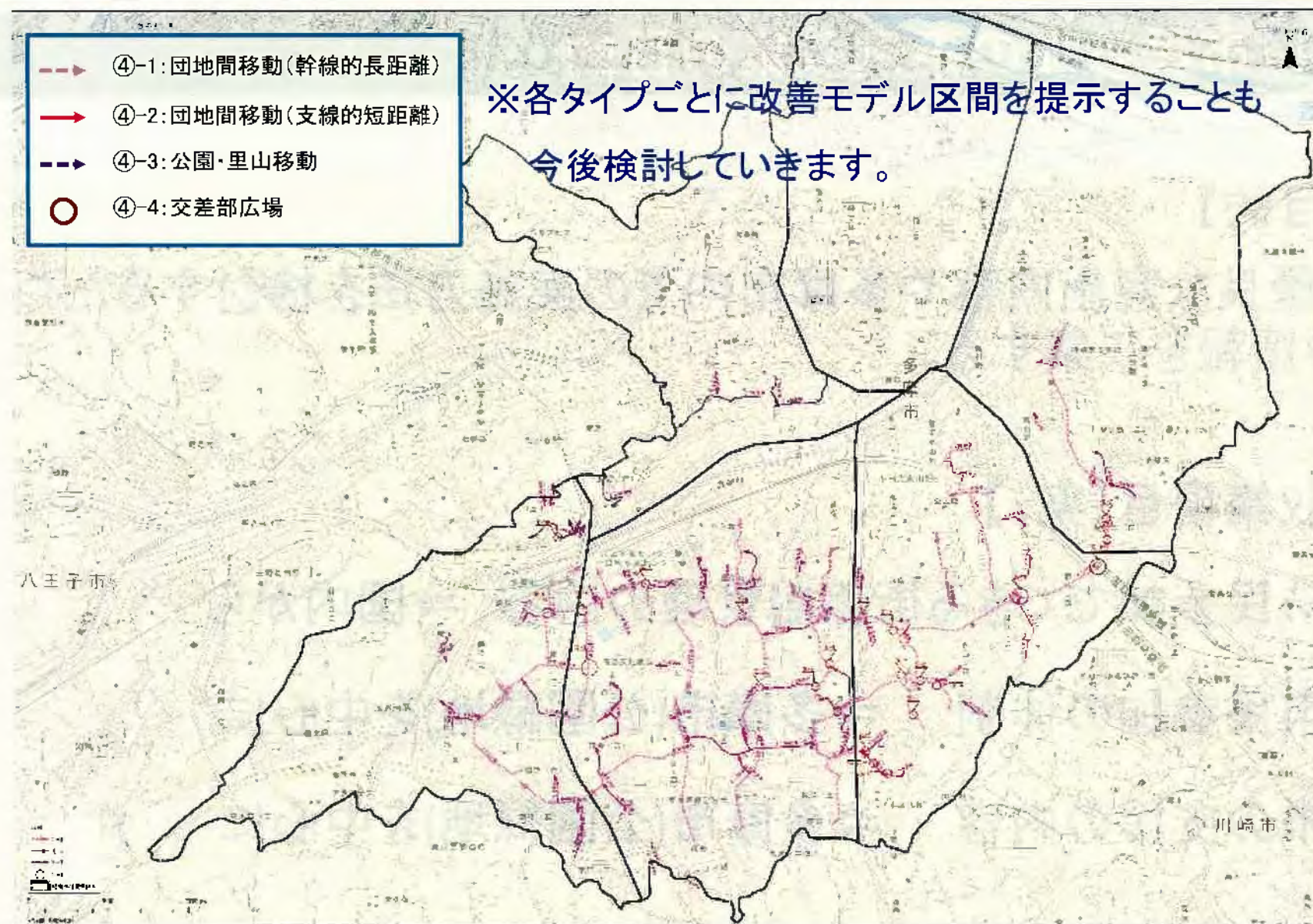


図 ペデ部の位置図

4. 街路樹管理の市民参加の可能性

(1) 市民参加の事例収集の目的

【目的】

優良な実施内容や多摩市内での実施方法を検討するための情報を収集する。

【収集項目(案)】

- ・市民参加のできる街路樹管理の内容 ⇒国内から
- ・市民参加の体制 ⇒多摩市(公園緑地)を中心に
- ・市の支援の内容 ⇒多摩市(公園緑地)を中心に

4. 街路樹管理の市民参加の可能性

(2) 多摩市アダプト制度(道路交通課)

【目的】

- ・道路施設等の公共空間の美化、清掃活動を通じて、市民意識の高揚と市民との協働によるまちづくりの推進

【内容】

- ・植樹帯内花壇の整理、除草・清掃など

【手続き】

- ・市民と市との役割分担を明示した合意書を締結する。

【登録団体】

- ・55団体(街路部:19、ペデ部:36)

5. アンケート調査速報

(1) アンケート調査の概要

目的: 市民の多摩市の街路樹に関する認識や考え、嗜好等を明らかにすることにより、その成果を街路樹よくなるプランの改定版の参考にする

対象: 18歳以上の多摩市在住の市民 840名

期間: 平成29年10月19日～11月10日

回収: 168名(20%) (途中時点)

6. 委員会の進め方・スケジュールについて

スケジュール(案)

平成29年11月24日時点

年月	主な内容	段階	市民参画・周知活動
平成29年度	8月 第一回改定委員会 進め方の確認、課題の共有、アンケート	素案	
	9月	素案	
	10月 第二回改定委員会 目標、方針、課題について	素案	市民アンケート実施
	11月 第三回改定委員会 方針、取組み内容・改善モデル区間選定について	素案	
	12月	素案	①市民ワークショップ ②市民ワークショップ ③市民ワークショップ
	1月 第四回改定委員会 取組み内容、改善モデル区間選定と路線別管理方針案、 具体的なプログラム作成について	素案	
	2月 第五回改定委員会 素案(骨格案)の決定	素案	
	3月 (素案決定)	素案	素案に関するパブリックコメント実施
平成30年度	4~6月 第六回改定委員会 パブリックコメント意見の反映についての議論 第七回改定委員会 原案作成に向けた確認作業	原案	素案説明会実施 市民ワークショップ開催
	7~9月 第八回改定委員会 原案決定	原案	原案パブリックコメント
	10~12月 第九回改定委員会 最終確認	改定版	原案説明会
		改定版	
	1月		広報・周知 広報・ホームページ

6. 委員会の進め方・スケジュールについて

ワークショップについて

ワークショップ「多摩市の街路樹の魅力発見！」

(1) ワークショップの目的

参加市民の方に現地見学、議論をいただき、街路樹の魅力や課題を提示してもらい、プランの改定に反映する。

(2) ワークショップのテーマ

- ・まち歩きを通じて多摩市の街路樹が有する魅力と課題を発見
- ・市民が考える街路樹の将来イメージの抽出

表 ワークショップの開催概要

回数	開催時期等	実施項目
第1回	・12月3日(日) 9:00～12:00	街路樹の現状説明、専門家からの講義(街路樹を話題としたもの)、
第2回	・12月10日(日) 9:00～12:00	現地見学(諏訪、永山地区) 街路樹の魅力と課題・将来のイメージに関する意見交換
第3回	・12月16日(土) 9:00～12:00	街路樹の魅力と課題・将来のイメージに関する意見交換・まとめ

募集人数 30名